

# 音楽科学習指導案（3年3組）

令和3年6月17日（木曜日）10:40～11:30 第二集会室

1 題材 歌詞の内容と曲想を生かして表現を工夫しよう

## 2 題材の目標

- (1) 「足跡」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で「足跡」歌うために必要な、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2) 「足跡」の強弱、速度、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「足跡」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「足跡」の歌詞が表す心情と強弱、速度、構成との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

## 3 題材設定の理由

### (1) 教材観

#### ①題材の価値

本題材は、既習事項である歌詞や曲想と強弱、構成との関わりに加えて、速度の変化による演奏効果について考え表現を追求していくことを通して、よりよい演奏にするために創意工夫する力、創意工夫を生かした表現をするための技能、主体的・協働的に練習や試行をする力を高めていくものである。

本題材で扱う合唱曲「足跡（作詞：Little Glee Monster 作曲：KOUICHI IWATSUBO/Carlos K. 編曲：上田真樹）」はNHK 全国学校音楽コンクール中学校の部の課題曲として書かれた混声三部合唱曲で、中学校生活での苦難やつらい日々も「無駄なんてなかった」と言い合える日がきつとくることを願った歌詞となっている。構成は、イントロ、A1、B1、サビ1、B2、サビ2、C1、サビ3、サビ4、アウトロ、というJ-POPの一般的なものとなっている。まとまりごとの強弱の変化やパートの役割の移り変わりも知覚しやすいため、生徒にとっては創意工夫のしやすい作品と言える。サビ3～4にかけては、速度を落とした無伴奏での合唱から、速度の変化を伴う音楽の盛り上がりと転調を経て、本作品の最高潮を迎える展開となっている。

構成と強弱の変化や、場面による速度の移り変わりを知覚・感受しながら練習することを通して、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについての理解を深めることができる。また、作品が最も伝えたい部分と速度変化との関わりについて考え、歌詞の内容や曲想にふさわしい速度を吟味しながら練習することを通して、よりよい歌唱表現にするために創意工夫する力と、創意工夫を生かした表現をするための技能を高めることができる。さらに、ペアやグループでの活動場面を作り、考えを交流したり演奏の結果について共感したりしながら練習することを通して、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む態度を養うことができる。

#### ②題材の系統性

- ・第1学年では、混声三部合唱曲を二人組や各パート4人程度の小グループで創意工夫する活動を通して、思いや意図を交流しながら主体的・協働的に学習に取り組む態度や、構成と強弱、構成とパートの役割、歌詞と強弱などの関わりについて考え創意工夫する力を身に付けてきた。
- ・第2学年では、各クラスの合唱曲に取り組み、指揮者やパートリーダーを中心とした合わせ練習を通して、歌詞に込められた感情やイメージと声の音色や強弱との関わりに着目して創意工夫し、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な身体の使い方や各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けてきた。
- ・本題材学習後の各クラスの合唱曲では混声四部合唱曲に取り組み、より複雑な構成とパートの役割の変化、無伴奏部分や速度の変化について知覚・感受しながら考え創意工夫することを通して、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて更に理解を深め、音楽に対する感性を豊かにしていく。

## (2) 生徒観（男子 17 名、女子 17 名 計 34 名）

- ・知識については、強弱と歌詞の関わり、言葉の発音や音色と歌詞の関わり、パートの役割と強弱や音色の関わりについて、工夫するために必要だと理解している生徒がそれぞれ 74%、48%、51%であったのに対して、速度と歌詞の関わり、構成と速度の関わりについて理解している生徒はそれぞれ、35%、9%と少なかった。これは、今までの題材に速度の変化を伴う作品が少なかったことや、創作の際に速度によるイメージの変化を吟味しながら創意工夫する経験が少ないことが原因と考えられる。
- ・技能については、「花（作詞：武島羽衣 作曲：滝廉太郎）」の二重唱の発表において、91%の生徒が他者と合わせて正しい音程で二重唱や合唱することができた。また、歌詞の内容と強弱との関わり、言葉のまとまりとリズムとの関わりを考え、創意工夫を生かした表現で歌うことができた生徒は 74%である。創意工夫しながら技能を高める練習に慣れている生徒が多く、授業内で創意工夫した内容を想起しながら歌う技能の高い集団である。
- ・思考・判断・表現については、実際に練習する中で表現の結果を吟味し、より楽曲にふさわしい新たな思いや意図につなげ、言葉や図形譜などで表現できる生徒が 64%である。しかし、よりよい歌唱表現を創意工夫する視点として速度に必要感をもっている生徒は、上記の知識についての通り少ない。速度に関する創意工夫については、フェルマータに向かう減速のある曲に取り組んだことがある程度で、速度と歌詞の内容や曲想とを関わらせて考える題材に取り組むのは今回が初めてとなるためであると考えられる。
- ・主体的に学習に取り組む態度については、練習メニューや練習時間について自分たちで見通しをもって決定し、パートリーダーやチームリーダーの指示に従いながら課題に沿って練習を進めることができる生徒がほとんどである。また、パートリーダーやチームリーダーの生徒は、メンバーの習得状況を見ながら歌う箇所を限定したりゆっくり練習したりして、練習方法を調整することができる。合唱曲を創意工夫して歌うことに対する関心や意欲が高い集団であることが、生徒の主体的・協働的に取り組む姿として表れていると考える。

## (3) 指導観

- ・NHK 全国学校音楽コンクールとの関わりや、紅白歌合戦での原曲の披露、全国の合唱に携わる中学生がこの曲に取り組んでいることなどを伝えてから曲に出会わせることで、楽曲に対する関心と練習への意欲を高められるようにする。
- ・曲の構成、この曲で一番伝えたいこと、工夫できそうなこと、の 3 点を意識させながら楽曲を聴くことで、今後の学習への課題意識を引き出し、題材の課題につなげられるようにする。
- ・練習に取り組む際には練習メニューを活用し、その時間でどのように練習に取り組むかを全員が共通理解しながら取り組めるようにするとともに、今後の題材にも生かせるようにする。
- ・iPad、ワイヤレススピーカーを用いて音取り練習に取り組ませることで、それぞれのパートの課題に合わせて学習方法を調整できるようにする。
- ・つかむ段階の最後に、ロイロノートで苦手な部分や工夫したいところについてのアンケートを取ることで、追求する段階での基礎的な技能の指導や課題設定に生かせるようにする。
- ・アンケート結果から、速度に対する必要感の少なさに気付かせることで、よりよい歌唱表現を創意工夫するための課題として速度の大切さに気付かせる。
- ・追求する段階では、アンケートをもとに工夫するための視点を決め、一人一人に視点に応じた役割と工夫するためのヒントをもたせることで、生徒一人一人が思いや意図をもちながら練習に取り組むことができるようにする。
- ・創意工夫する際には、ペアで意見交流しながら試行する段階と、チーム内や全体で意見交流しながら試行する段階をつくることで、自分の意見をもちながら他者の意見を吟味し、練習しながら新たな思いや意図につなげることができるようにする。
- ・チーム練習に挑戦し、他チームへの発表を目標に少人数で意見交流しながら練習することで、仲間意識を生み、自分たちの創意工夫や演奏のよさについて共感できるようにする。
- ・まとめる段階では、全員で合わせながら自分の歌を録音することで、自身の技能の成長を実感できるようにするとともに、客観的視点から自身の演奏を改善できるようにする。

4 指導と評価の計画 音楽 3年 題材「歌詞の内容と曲想を生かして表現を工夫しよう」(全5時間計画)

目標	(1) 「足跡」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で「足跡」歌うために必要な、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 (2) 「足跡」の強弱、速度、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「足跡」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 (3) 「足跡」の歌詞が表す心情と強弱、速度、構成との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。					
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	知 「足跡」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で「足跡」歌うために必要な、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	思 「足跡」の強弱、速度、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「足跡」にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。	態 「足跡」の歌詞が表す心情と強弱、速度、構成との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。			
	時間	◎目標・課題	○学習活動	重点	記録	備考
つかむ	2	◎「足跡」の作られた背景や歌詞の内容を知り、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに着目して聴いたり練習したりすることで、曲の全体像について理解する。 「足跡」の音取りをし、曲の全体像をつかもう。	○「足跡」を聴き、題材の課題を立てる。 ○音取りパート練習をし、曲の全体像をつかむ。 ○練習する必要がある所と工夫したい所を確認する。(アンケート)	態	知	○ 知：記述分析
		題材の課題：歌詞の内容と曲想を生かして表現を工夫しよう				
追求する	2 (本時はその2)	◎「足跡」の強弱、速度、構成を知覚・感受し、少人数で意見交流しながら練習に取り組むことで、思いや意図を基に「足跡」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 1番(C~D)の歌詞を生かして、強弱、言葉の発音を工夫しよう。 3番(I~J)の盛り上がり、速度と強弱を工夫して表現しよう。	○アンケート結果を確認し、クラスの課題意識から本時の課題を立てる。 ○二つのグループに分かれ、チーム練習に取り組む。 ○それぞれのチームの演奏を発表し、そのよさについて考える。 ○チーム練習で工夫したことを、全員で試す。	思	技	○ 思：観察、記述
		◎創意工夫を生かした表現で「足跡」を歌い、自分の声の録音や全体の録音を聴いて発見した課題を基に主体的・協働的に練習することを通して、技能の課題を解決し、題材での学びを深められるようにする。 「足跡」の録音を聴いて、個人やパートの課題を解決し、創意工夫を生かした演奏で発表をしよう。	○全体で合わせて歌いながら自分の歌を録音する。 ○自分の声の録音を聴き、課題を見つける。 ○全体で合わせ練習をしながら、個々の課題やパートの課題、全体の課題を解決する。 ○クラスでの通し演奏を録音する。 ○録音を聴き、題材のまとめと振り返りをする。	技	態	○ 技：演奏・記述 ○ 態：観察・記述
まとめ	1					

5 本時の展開 (4 / 5)

(1) 目標

「足跡」の3番(I~J)の強弱、速度、構成を知覚・感受し、少人数で意見交流しながら練習に取り組むことで、思いや意図を基に「足跡」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p><b>1 前時の活動を振り返り、本時の課題を立てる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時は1番のサビを工夫したな。</li> <li>・強弱、言葉について吟味したな。</li> <li>・速度が遅いと、より辛さが際立つ雰囲気になるな。</li> <li>・accel. でどのくらいまで速くするかによって雰囲気が違うな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常時活動を行い、学習の雰囲気を作る。</li> <li>○アンケートから、生徒が難しいと感じている部分の音取りをすることで、本時で創意工夫する練習に抵抗なく取り組めるようにする。</li> <li>○アンケートでは「速度」に関する必要感が少ないことに着目させ、速度変化による違いを知覚・感受させることで、曲の展開に速度が重要な要素であることに気付けるようにする。</li> </ul>
<p><b>課題：3番(I~J)の盛り上がりを、速度と強弱を工夫して表現しよう。</b></p>	
<p><b>2 二つのチームに分かれて練習し、歌い方を工夫する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○工夫する際の自分の視点を決め、役割のカードを提出する。</li> <li>○チームに分かれて練習する。</li> <li>・「ほんの少し前より遅く」だけど、J=80くらいだと、あまり変化がなくて効果的ではないな。</li> <li>・始まりを遅くしすぎると、accel. が難しくなるな。</li> <li>・Con energia (精力的に) はJ=92だと、速すぎて慌ただしくなるな。</li> <li>・「今日も歩き続ける」からは、一心不乱に進み続ける様子なので、前よりも気持ち速めに演奏したらどうかな。</li> <li>・最初はpだけど、弱々しくならないようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○速度の変化、強弱の変化について役割分担することで、各自が視点をもって考え工夫できるようにする。</li> <li>○チーム練習の目的と、楽譜上の速度記号の意味、速度変化の工夫の仕方について全体で確認し、生徒が創意工夫する活動に集中できるようにする。</li> <li>○指揮をしながら歌う練習と、より遅く歌った場合、少しだけ遅く歌った場合を比較聴取する活動をすることで、速度に関する工夫の考え方を全員が共通理解した状態で練習できるようにする。</li> <li>○メトロノームアプリを使用することで、生徒が速度を数値で共有しながら工夫できるようにする。</li> <li>○各チームを巡視しながら、技能面の指導や新たな視点の助言をすることで、生徒が思いや意図をもって創意工夫する活動に集中できるようにする。</li> </ul>
<p><b>3 それぞれのチームの工夫を共有し、全体で試す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○工夫を発表し、実際に演奏する。</li> <li>・最初がJ=60くらいだと、スロー再生されているようでいいな。</li> <li>・少し早めの演奏だけど、緊張感が増して面白いな。</li> <li>○それぞれの工夫点を全体で試す。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>「足跡」の強弱、速度、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「足跡」にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。(観察、記述)</p>
<p><b>4 本時の振り返りをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が発表した工夫点を教師がメモし、モニターに掲示することで、全体で試すときに参照しながら練習できるようにする。</li> <li>○工夫した演奏のよさについて、他チームの生徒や教師が価値づけすることで、クラス全体でよさを共有しながら試せるようにする。</li> <li>○もっとよくしたいことや新しい気付きを振り返らせることで、次時へ練習に生かせるようにする。</li> </ul>
<p><b>&lt;振り返り&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速度が変わると、曲の雰囲気も大きく変わることが分かり、「戻れぬ日々を今日も歩き続ける」という歌詞や雰囲気に合った速度を探して練習することができた。accel. で、曲の一番の盛り上がりに向けて勢いを増すことができたので、今回は工夫を生かしてより上手に歌えるように練習したい。</li> </ul>	
<p><b>&lt;「学びの質」を高めるための具体的な手立て&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽表現のふさわしさを吟味する「ミュージック・ワークショップ」の展開</li> <li>・チーム練習を目指した段階的な練習パターン習得のための「練習メニュー」の活用</li> </ul>	